

科目名	国際関係論特講	担当者	クサノ ヒロキ 草野 大希	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本科目は、国際関係論における代表的な理論に関する理解を深めると同時に、国際関係の「歴史および現実」についても学習し、結果として、複雑な国際関係を分析的、理論的、体系的な視座から捉えられるようになることを目的とする。具体的には、リアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズム等の国際関係論の主要学派が提供してきた諸理論を学習し、「分析レベル」に基づく国際事象の考察方法を学び、国際関係論の主要理論を総合化する「複雑システム」の観点を理解し、過去および現代の国際秩序に関わる具体的な問題を複眼的な視点から考察できるようになること、である。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 国際関係論の理論的な専門「知識」および国際関係事象の分析・考察「技能」を修得する。 【行動目標 (SBOs)】 ① 国際関係論の主要学派と複雑システムについての理論的内容を理解する (知識) ② 分析レベルに基づく国際事象の考察方法および世界大戦、冷戦、グローバル化、米国の介入政策など国際秩序に関わる具体的な事実 (歴史) を理論的に考察する方法を獲得する (技能) ③ 様々な国際関係事象に対して、社会科学的なセンスを持って向き合えるようになる (態度)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 Manaba-Folio・メール・Zoomなどを介した、受講者と教員との間の双方向型の指導に基づく、受講者による自発的・積極的な学習を前提とする 【学修方略 (LS) と学修時間】 ・「準備学修」スライド (Manaba-Folio 掲載) の閲覧と吟味 (10 時間)、「基本教材」や「参考図書」の精読 (25 時間以上)、「レポート作成」(1 本あたり 20 時間以上) で構成される ・基本教材を基に合計 4 つの課題を設け、その課題に答える形で学習を行う。質問や疑問が生じた場合には、メールにより教員に相談したうえで問題を解消し、効果的に学習を進めてほしい。 ・レポート課題としては、後述のように、合計 4 つのレポートを提出する必要がある</p>		
スケジュール	<p>・前半は「基本教材 1」を中心とした内容を学習範囲とする。6 月末までに一通りの学習を終了し、「基本教材 1」に関連する「レポート課題 1」を 7 月中旬、「レポート課題 2」を 8 月中旬までに、それぞれ初稿を提出する。教員のコメントを受け修正した最終稿を、学事暦で定められた日までに提出する。 ・後半は「基本教材 2」を中心とした内容を学習範囲とする。10 月末までに一通りの学習を終了し、「基本教材 2」に関連する「レポート課題 1」を 11 月中旬、「レポート課題 2」を 12 月中旬までに、それぞれ初稿を提出する。教員のコメントを受け修正した最終稿を、学事暦で定められた日までに提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70%	(A) 内容 (課題に的確に答えているか)、(B) 構成 (文章の構成は合理的で論理的か)、(C) 調査の精度 (十分な調査に基づくものか)、(D) 文章表現力 (誤字脱字の無い、理解可能で正確な文章か)
	観察記録	30%	レポート作成の過程や質問などのやり取りを通して総合的に判断
履修者への要望	<p>国際関係論または国際政治学に関する入門的な知識があれば、履修者の学習はよりスムーズに進むと思われるが、たとえそのような知識がなくとも、履修者の努力次第では、履修は可能と考える。また、本科目の基本教材は日本語で書かれた書物であるため、高度な英語力 (読解力) は必須ではない (ただし、より発展的な学習を行う場合には、高い英語力が武器となることは確かである)。他方で、現在の世界情勢を含め、国際関係に関心がない人にとっては、本科目の履修は難しいと言える。本科目は、所謂「時事解説」を主眼とするものではないが、ここで学ぶ様々な知識は、現在あるいは今後の世界秩序を構想する上で有用になるものである。それを自分自身で実践できるように、普段から国際問題に高い関心を有している積極的で意欲的な学生が履修してくれることを期待する。なお効果的な授業運営の為に、履修希望者は、履修登録と同時に担当教員にその旨、連絡して下さい (kuslsaku@mail.saitama-u.ac.jp)。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： ジョセフ・S・ナイ・ジュニア、 デイヴィッド・A・ウェルチ 教材名： 『国際紛争—理論と歴史（原書第10版）』（有斐閣、2017年） ISBN: 978-4-641-14917-5 3,300円（定価）
	ハーバード大学での講義のためにナイによって執筆された「国際関係論」における定評ある教科書である。20世紀の二つの世界大戦や冷戦を経た後、人類は地域紛争やテロに見舞われている。なぜそうした紛争が起こるのか。相互依存が進展し、民主的価値が広まれば世界秩序が達成されるのか。「理論」と「歴史」の相互検証を通して、国際関係論の分析道具を提供する最適の教材である。
参考図書	吉川直人・野口和彦編『国際関係理論（第2版）』（勁草書房、2015年） ISBN:978-4-326-30244-4 3,300円（税別）
履修上のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・古代ギリシャにおけるペロポネソス戦争からグローバル化する21世紀の世界に至るまでのマクロな国際関係の歴史的動向を掴む ・国際事象を純粋な「歴史学」ではなく、社会科学の一分野としての「国際関係論」の理論的、分析的、方法的視座から考察する感覚を身につける ・リアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズムに関する学術的知識を習得する
レポート課題 1	課題：教材で示された「3つの分析レベル」に基づき、国際関係に関わる特定の事象や出来事を分析しなさい。文字数は最低でも4,000字程度は必要であろう。 留意点： とくに、教材の第1章～第5章の内容を十分踏まえて課題に取り組んで下さい。
レポート課題 2	課題：21世紀の世界秩序は、20世紀までのそれとは、どのように異なるのか。教材を参照しつつ、論じなさい。文字数は最低でも4,000字程度は必要であろう。 留意点： とくに、教材の第6章～10章の内容を十分踏まえて課題に取り組んで下さい。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 草野大希 『アメリカの介入政策と米州秩序—複雑システムとしての国際政治』（東信教材名： 堂、2011年） ISBN:978-4-7989-0085-8 5,400円（税別）
	国際関係論の主要学派であるネオリアリズム、ネオリベラリズム、コンストラクティビズムの理論的知見を総合化するものとして「複雑システム」の理論を位置づけ、同理論の妥当性を、20世紀初頭の米州におけるアメリカの介入事例から検証した本書は、「理論」と「事実」両面から高度な国際関係の理解を目指す上で最適の教材である。
参考図書	廣瀬和子『国際法社会学の理論—複雑システムとしての国際関係』（東京大学出版会、1998年） ISBN: 978-4130311618 5,200円（税別） 【アマゾン中古有】
履修上のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ネオリアリズム、ネオリベラリズム、コンストラクティビズム（三つの「イムズ」）の理論的特徴、およびそれぞれの理論が何を抽象し、何を捨象したかについてきちんと理解する ・三つの「イムズ」が、互いに「対立的」ではなく、「補完的」で「有機的」な関係として統合できることを、複雑システムの視点を通して理解し、国際関係を体系的に捉える力を涵養する ・複雑システムの枠組みを応用し、具体的な国際関係事象の特徴や論理を自分自身の手で解明する
レポート課題 1	課題：国際政治学における3つの「イムズ」を総合するモデルとしての複雑システムの理論的特徴は何か。教材を参照しつつ、その内容を4,000字以上で概説しなさい。 留意点： とくに、教材の第1章～第4章の内容を十分踏まえて課題に取り組んで下さい。
レポート課題 2	課題：国際関係に関わる特定事象や事例を任意に選択し（事前に担当教員に相談）、その特徴や論理を、本科目で学修した理論を援用して明らかにする小論文（4,000字程度）を作成しなさい。 留意点： 分析や記述の方法として、基教材の第5章～第12章を参考にすると良いだろう。

基本教材 1

第 1 回	学修課題の理解①：国際関係論特講準備学修
第 2 回	学修課題の理解②：国際関係論特講準備学修
第 3 回	学修課題の理解③：教員との意見交換を通じた学修課題の理解度の確認
第 4 回	基本教材 1 に基づく学修①（第 1・2 章）
第 5 回	基本教材 1 に基づく学修②（第 3・4 章）
第 6 回	基本教材 1 に基づく学修③（第 5 章）
第 7 回	基本教材 1 に基づく学修④（第 6・7 章）
第 8 回	基本教材 1 に基づく学修⑤（第 8・9 章）
第 9 回	基本教材 1 に基づく学修⑥（第 10 章）
第 10 回	基本教材の内容吟味とレポート課題 1 の作成
第 11 回	レポート課題 1 初稿提出
第 12 回	レポート課題 1 教員の添削を受けて、加筆・修正を行った最終稿提出
第 13 回	基本教材の内容吟味とレポート課題 2 の作成
第 14 回	レポート課題 2 初稿提出
第 15 回	レポート課題 2 教員の添削を受けて、加筆・修正を行った最終稿提出

基本教材 2

第 1 回	学修課題の理解①：国際関係論特講準備学修
第 2 回	学修課題の理解②：国際関係論特講準備学修
第 3 回	学修課題の理解③：教員との意見交換を通じた学修課題の理解度の確認
第 4 回	基本教材 2 に基づく学修①（第 1・2 章）
第 5 回	基本教材 2 に基づく学修②（第 3・4 章・第 I 部の総括）
第 6 回	基本教材 2 に基づく学修③（第 5・6 章）
第 7 回	基本教材 2 に基づく学修④（第 6・7・8 章）
第 8 回	基本教材 2 に基づく学修⑤（第 9・10・11 章）
第 9 回	基本教材 2 に基づく学修⑥（第 12 章・第 II 部の総括）
第 10 回	基本教材の内容吟味とレポート課題 1 の作成
第 11 回	レポート課題 1 初稿提出
第 12 回	レポート課題 1 教員の添削を受けて、加筆・修正を行った最終稿提出
第 13 回	これまでの基本教材の内容吟味とレポート課題 2 の作成
第 14 回	レポート課題 2 初稿提出
第 15 回	レポート課題 2 教員の添削を受けて、加筆・修正を行った最終稿提出